

評価領域	教育課程
------	------

重点目標	社会参加につながる特色ある教育課程の編成と実施
------	-------------------------

現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 恵まれた自然環境や地域とのつながりを生かした教育課程の編成に取り組んでいる。 ・ 校舎改築工事が昨年度から始まり、今年度中に校舎棟が完成予定であるが、そのためにグラウンドや駐車場等の使用が規制される。新校舎には、食品加工室や地域交流室などが新設される予定である。 ・ 居住地校交流については、保護者や相手校の理解が乏しく実施率が低い。学校間交流は各学部とも積極的に実施している。
-----	---

具体的な目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 新学習指導要領に基づいた地域参加型の教育課程の実践と評価 2 学校特産品の開発と製作、販売 3 小学部 5 5 %、中学部 4 5 %の児童生徒の居住地校交流の実施
--------	--

目標達成のための方策	<ol style="list-style-type: none"> 1 研究実践や全校授業研究会、公開研究会での指導助言、教育課程検討委員会、年間指導計画検討会等を通して新学習指導要領の理解を図るとともに教育課程の評価・改善につなげる。 2 食品加工に係る外部講師を新規に依頼したり、外部の方に高等部作業学習製品全般に渡って講評していただく。また、新規販路を開拓する。 3 居住地校交流に関する保護者向けチラシを配付するとともに、居住地校交流や学校間交流の実施日の前に障がい理解授業を実施し、相手校の理解推進を図る。
------------	--

具体的な取組状況	<ol style="list-style-type: none"> 1 各学部 1 回の全校授業研究会と 1 2 月に特別支援教育課指導主事を指導助言者として招き、公開研究会を実施した。年間指導計画検討会を 4 回、教育課程検討委員会を 5 回実施し、教育課程の評価・改善を図った。 2 農園芸班は枝豆フィナンシェ、縫製班は段染めストール、木工班は曲げのコースター、陶芸班はポチ皿などの新製品を開発した。地域の飲食店から陶芸製品の発注を受け納品することができた。マタギの里開発株式会社代表取締役仲澤氏から製品 P R 等についての助言を受けた。 3 小学部は桂城小学校と 2 回、西館小学校と 5 回、中学部は東中学校、比内中学校と各 1 回、高等部は大館桂桜高校と 6 回の学校間交流を実施した。居住地校交流は小学部 1 9 名、中学部 1 1 名の児童生徒が実施した。
----------	--

P

D

達成状況	<ol style="list-style-type: none"> 1 「主体的・対話的で深い学び」の視点を生かした授業づくりは職員一人一人に浸透してきているが、公開研究会では、「授業を通して何を学ぶか、各教科等の目標と内容、各教科等の見方・考え方を押さえることが大切である」との助言をいただいた。 2 高等部の各作業班で外部講師からの指導や助言を生かしながら新製品を開発するとともに、販路を開発することができた。 3 居住地校交流は小学部は68%、中学部は49%の実施率で目標を達成した。 	
-------------	---	--



自己評価	(評価) A	(根拠) <ul style="list-style-type: none"> ・職員による学校評価では「地域と共に育つ教育活動や感謝される体験を通して本物の力を育てる」との設問に98%の職員が「よかった」「まずまずよかった」と回答している。 ・保護者による学校評価では「地域と共に育ち、地域に感謝される学校づくりが行われていると思いますか」との設問に94%の保護者が「はい」「どちらかといえばはい」と回答している。 	C
-------------	---------------	---	----------

↑
 評価基準
 ↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない



学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) <ul style="list-style-type: none"> ・「達子森の夏祭り」は地域と共に歩む取組の典型であり、見事に学校経営の重点を達成している。5年前、10年前と比較すると子どもたちの姿は確実にレベルアップしており、学校と地域の関係性の深化がもたらしたものだと思う。 ・地域と共に自立と社会参加に向けた力を育む教育活動は今後も継続して取り組んでいってほしいと思うが、プラスαが大切だと考える。マンネリ化にならないよう、工夫を凝らしてほしい。 ・学校での活動内容をさらに地域に発信してほしい。 	C
-------------------	---------------	--	----------



自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員に新学習指導要領の趣旨が理解されるよう、今年度の研究の成果と課題を踏まえながら、一人一授業研、全校授業研究会、公開研究会を継続して実施する。 ・食品加工室や調理室を有効活用し、学校特産品の開発を図る。また、地域交流室を活用した地域との交流計画の立案、実施を図る。 ・学校間交流の相手校を精選した上で、内容の充実、質の向上を図る。 	A
------------------------------	---	----------